



宇治市消団連研修会

2018年5月18日(金)

京都市中央市場 を見学しました

— 市民生活を支える食の拠点 —

昭和2年(1927年)に全国初の中央卸市場として開設した京都市中央市場は JR 丹波口駅付近に位置し、敷地面積は約 14 万 7 千㎡ (甲子園球場約 4 個分) の広さだそうです。

14 名の参加で出かけました。平成 29 年(2017 年)には開設 90 周年を迎えた市場! 豊かな食生活と京の食文化を支える食の拠点! の見学。ドキドキしながら、京の食文化ミュージアム「あじわい館」に到着しました。



展示スペースは、暮らしを支える、育む、彩る、もてなしの食文化をテーマに、行事食、京野菜漬物、清酒、ふるさとの逸品など、パネルや模型、実物など興味深い展示が沢山ありました。だしの試飲もあり、楽しみました。実際の市場見学の前に映像で市場の歴史や流通の仕組みを学び、卸売業者・仲卸業者・買出人とか、せり売り・相対売りな

ど、せりのしくみや市場の一日を学びました。

その後いよいよ場内見学へと進みました。いただいたパンフレットを見ると「市場内企業・団体数約 300 社、市場内従事者約 3300 人、買い出し人 3000 人以上」と書いてあり規模の





大きさに驚きました。青果場にて野菜二次せり見学、その野菜、果実見学と慌ただしい場内をオレンジ色のジャケットを身にまとい、なかなか行く事の出来ない広い市場でした。卸売業者・仲卸業者・買出人とその後ようやく消費者私達一般家庭の食卓に上る数々食材食品の多いのにびっくりした見学会でした。



<参加者の感想>

*以前より大変興味を持っておりました。安心、安全を第一に市民の食生活を守ってくださっていることに感謝します。府民だよりでは目を通していましたが、目の当たりにセリの様子を肌で感じることができました。健康で生きることは食生活が大切です。新鮮で安価で消費者に手が届くようにこれからもよろしくお願いします。



*個人では見学できないセリなど体験できてよかったです。今はセリ売りより相対売りが増えていると聞きましたが、セリも文化、残してもらいたいと思います。生産者のためにも高く売りたい、消費者のためにも安く買いたい。この駆け引きが、うまくバランスのとれたものになることを願っています。大企業の参入などにより企業本位で生産者泣かせになって来ているのでは…と思います。

*市場の中を見学させて頂くというのは初めての経験でしたので勉強になりました。とても活気

のある現場で、私たちの食卓に野菜・果物・肉・魚があがるまでに、たくさんの方々の手をわずらわしているのだということを改めて感じるとともに、感謝の気持ちでいっぱいになりました。そして国産のものを安心して頂きたいと思いました。

*見学して納得。平素は小売業の方だけのおつきあいです。流通部門には今回初めての見学です。私の家までたどりついた食材を大切に有難くいただきます。当業界の更なる進化・発展を祈ります。



知って得する 足と靴の非常識

2018年11月8日(木)宇治市生涯学習センター

講師：島村元達先生 三山木鍼灸整骨院院長

足が本来持っている機能を生かす正しい靴選びを学びました。二足歩行の原点はカメラの三脚のように母指球・小指球・踵骨の3点を支点としたバランス保持理論によるということ。現在の多くのシューズインソールは、アーチ部分を盛り上げており、足裏のフィット感が増すが、アーチの上下運動が弱く



なり、バランス保持力・衝撃吸収効果・血行や循環器の働きに支障をきたす場合もあるということを始めに説明してもらい、一般的なインソールと、母指球・小指球・踵骨の3点アーチを生かすインソールに実際に乗って効果を体感しました。足弓(アーチ)がしっかりと上下に可動することでバランスは保持され、脚部関節への負担を大きく軽減できるため、障害予防効果や潜在的な運動能力を最大限発揮するというお話を体で実感できました。

<重要>なのは・・・足弓(アーチ)がしっかりと上下可動出来るだけの隙間を確保すること。その効果として

- バランスを保ち姿勢を維持する土台の働き・・・肩こりや腰痛が軽減
- 着地時の衝撃や踏み蹴る時のバネの働き・・・運動機能が上がる
- 循環器を補助し血液やリンパを活性させる働き・・・冷え性の改善 など。



<参加者の感想>

「非常識」の言葉に魅力を感じて本日申し込みました。講義だけでなく体験させてもらって納得できました。情報が多いい今、頭の中を切り替えることが出来ました。

とても楽しく学べたお話でした。いつまでも歩ける楽しさを学ばせていただきありがとうございました。

私自身足の不具合は感じていませんが歩行の原点は3点支持という貴重なお話は大変わかりやすく納得できるものでした。いつもの講演会は途中で眠くなるのですが今日は最後までおもしろく聞かせていただきました。足だけではなく、今度は身体全体のお話を聞かせてほしいです。

目からウロコのお話ばかりで面白かったです。具体的に足や骨の構造を聞いて納得できました。これからも元気に歩けるように、今日聞いたお話を思い出しながら生活していきたいです。

2019年2月14日(木)

近畿農政局と懇談しました

(1) 種苗法について
(2) 新たな原料原産地表示について
(3) 身近な食品で食中毒を起こさないために
3つのテーマでそれぞれ講義して頂き、質疑応答により、理解を深めました。

(1) 種苗法については経営・事業支援部 地域食品課 課長補佐 小岩靖子さんより、「品種登録制度」で新品種を育成した者に、登録により一定の権利を与えることを通じて、品種の育成を振興する。「指定種苗制度」という種苗の表示に関する規定を定め、種苗の流通を適正化する。この二つのことによって農林水産業が発展し、さらに国民生活の向上を目指すという種苗法の目的を学びました。

(2) は消費・安全部 京都チーム 総括広域監視官 岩口孝嗣さんより、平成 29 年(2017年)9月1日から順次、全ての加工食品の原材料の産地が表示されるということで、どのような表示になるのか「ウイナーソーセージ」を例に具体的な表示の見方を教わりました。但し、平成 34 年(2022 年)3月31日まで食品メーカー等が準備をする猶予期間があり、一度に表示は変わらないそうです。

(3) は消費・安全部 消費生活課 課長補佐 柿本眞左子さんより、ニラと間違えやすい有害植物としてスイセン類、フキノトウと間違えやすいハシリドコロ、フクジュソウをカラー写真を見ながら、似ている点、違う点を確認しました。「毒キノコに要注意!」と毒キノコの危険性、素人判断の危険性を聞きました。



消費者月間ロビー展示

2018年5月14日(月)~16(水)
宇治市役所市民交流ロビーの市民ギャラリーにて、消団連の活動、消費生活センターの役割や消費者向け啓発情報などを展示しました。多くの市民の方が訪れ、クイズにも答えて頂きました。

2019年のロビー展示は5月20(月)~22(水)皆さん、ぜひお越しください。

<宇治市消費者団体連絡会>

*宇治市食生活改善推進員協議会「若葉の会」

*新日本婦人の会 宇治支部